

## 6 調査結果の分析

スポーツ庁においては、地域スポーツや学校体育の振興、国際競技力の向上等を一層推進することはもとより、健康増進に資するスポーツ機会の確保を施策の大きな柱の一つとして重点的に進めることとしている。

本年度は、スポーツ基本計画が掲げる生涯スポーツ社会の実現に向けて、全年代を通して運動・スポーツの実施状況と、体力や健康との関係性について分析することとした。

### I. 各年代の運動・スポーツ実施状況及び過去との比較

体力・運動能力調査の対象である6歳から79歳までの各年代の運動・スポーツの実施状況(以下、「実施状況」という。)について、平成27年度調査と30年前の昭和60年度(1985年度)調査及び15年前の平成12年度(2000年度)調査との比較も交えて分析を行った。

平成27年度の調査結果から、実施状況が週1日以上の方の割合について全ての年齢段階での推移を図5-1-1に示した。

男女ともに、小中学生の間は比較的高く、10代後半に下降して成年期を迎え、高齢期で再び高くなっている。

男子については、中学2年(13歳)でピークとなり(96.1%)、高校以降下がり続け40代後半で底を迎え(45.9%)、50代後半以降上昇する。

女子については、男子よりも早い小学5年(10歳)でピークを迎えるが83.6%に留まり、中学期を80%程度で推移した後、高校期で大幅に下落し18歳で33.7%の底を迎える。20代後半からは上昇に転じ、50代以降では男子を上回っている。

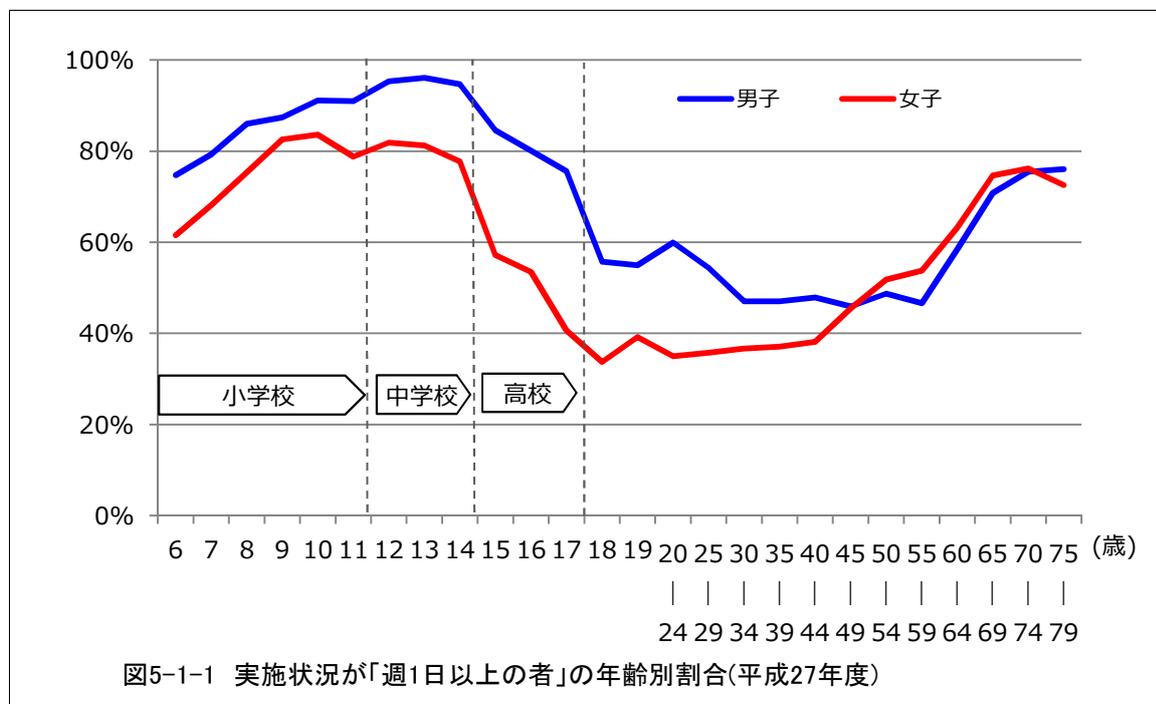
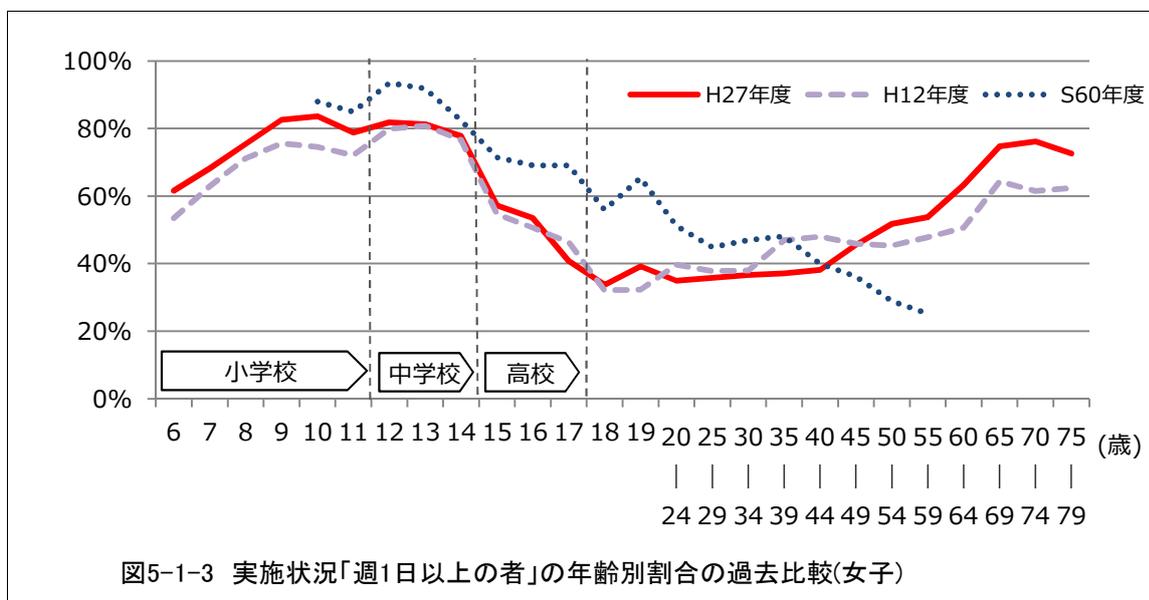
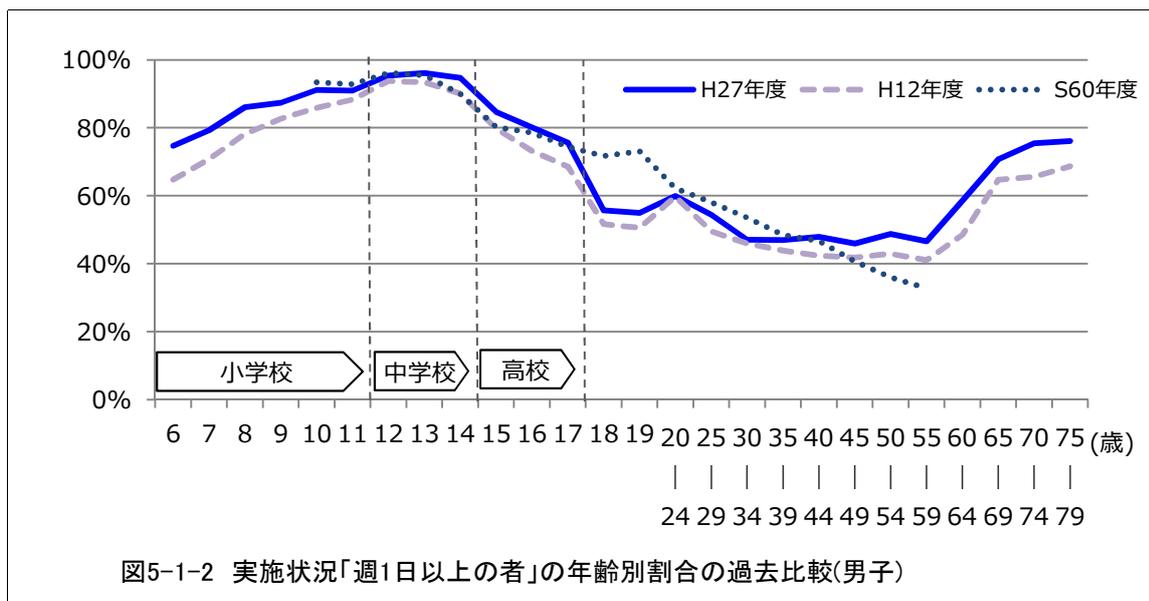


図5-1-1 実施状況が「週1日以上の方」の年齢別割合(平成27年度)

次に男女の実施状況の推移について、平成12年度及び昭和60年度のものと比較したグラフを図5-1-2及び図5-1-3に示した。

平成12年度と比較すると、男子は概ね各年齢を通じて上回っている。一方女子では20代前半から40代後半まで下回っているが、50代以降は逆転し、特に70歳以上では10～15ポイントも上回っている。

さらに昭和60年度との比較では、男女とも高校卒業から40代前半くらいまでは下回っており、特に女子の10代後半から30代までは10～20ポイント程度下落してしまっていることがわかる。一方で、40代後半以降は昭和60年度の数値を上回っており、年齢が高くなるにつれてその差は大きくなっている。



昭和60年度と比較すると、男子では運動実施状況に大きな変化は見受けられないが、女子については10代後半から20代の若い世代で、運動・スポーツを実施している人が大幅に減少していることがわかる。そのため、青少年を含めた生涯を通じて運動習慣を継続させていくための対策が重要であると言える。